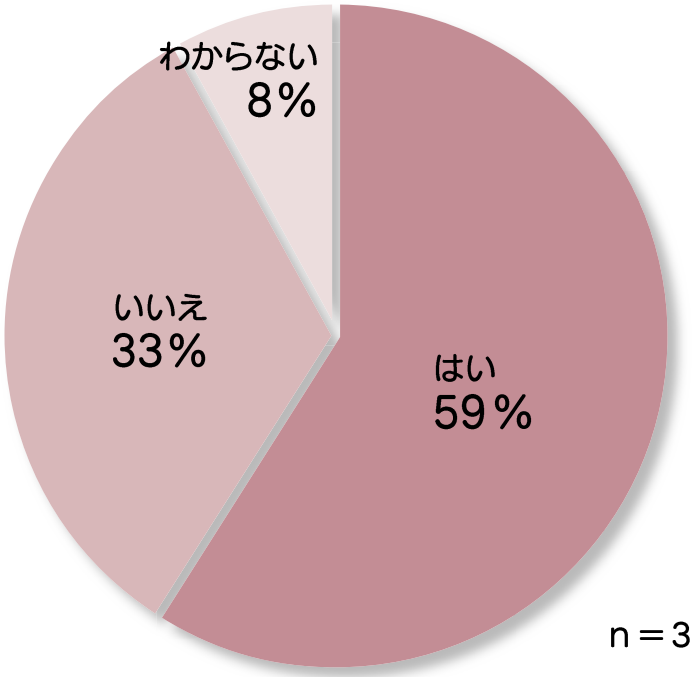
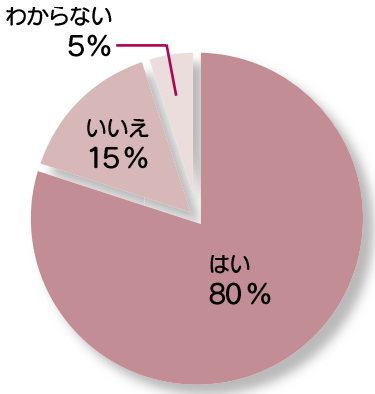
糖尿尿ネットワークを通して

糖尿病患者さんに聞きました

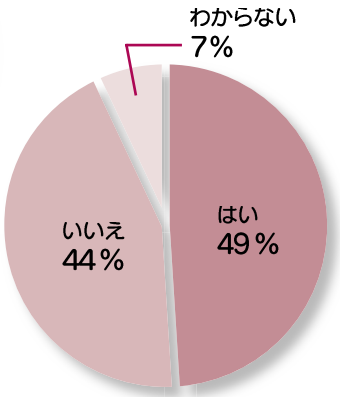
Q. あなたは高血圧を合併するリスクについて、主治医または医療スタッフから説明や指導を受けたことがありますか？



高血圧のある糖尿病患者さん
（n=118　全回答者の37％）



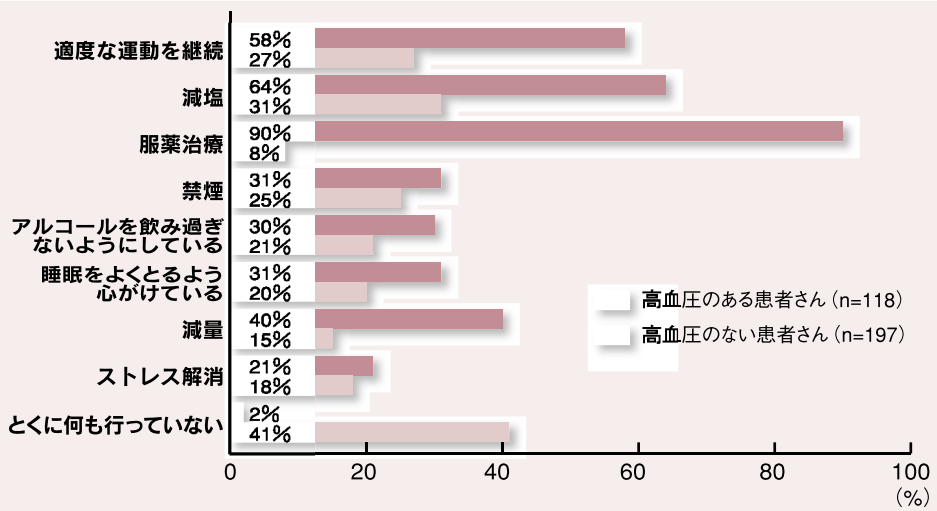
高血圧のない
糖尿病患者さん
（n=197　全回答者の60％）



主治医や医療スタッフから、説明や指導を受けたことがある糖尿病患者さんは6割となりましたが、高血圧のある方と、高血圧でない方では、その状況には差が見られることがわかりました。しかし、受診時の血圧測定以外に、家庭で血圧測定を行うかについて聞いてみたところ、高血圧のある方の82％、高血圧でない方の61％が毎日あるいはときどき実施、実施者の約半数が自主的に測定しており（主治医に勧められて測定を始めたのは3割）、血圧への意識は高いことがうかがえます。

血圧管理で取り組んでいることについて回答頂いたところ、下図のように、高血圧のある患者さんの9割は服薬治療とともに、継続的な運動や減塩など、できることに対して取り組んでいる姿勢が見受けられますが、高血圧のない患者さんは、予防的な意味も含めて積極的に取り組んでいる方は少ないようです。降圧薬の「後発品」への切り換えについては、6割余りが切り換えを希望しており、医師・薬剤師が今後どのように対応していくかが注目されます。

Q. 現在、あなたは血圧管理のために、どのようなことを行っていますか？（複数回答可　n=315）



●コメンテーター●

鈴木吉彦（日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野教授）

降圧剤の指導は、複雑な状態（年齢、蛋白尿の有無、罹病期間、服薬コンプライアンス、それに、経済状態）などを考慮し、到達目標値も変更しつつ、吟味し行わなくてはなりません。患者さん側も、なぜ、こういう薬を勧められるのか、その理由を聞いておきましょう。後発品推奨の問題は調剤薬局の利益も巻き込んだ行政指導が背景にあり、その詳細を医師があえて説明するべきか、迷う事もあります。誠意をもって指導し感謝される外来をどう運営していくか、行政側の医療費削減が最優先される現代で、それは難しい問題になっています。